

「東京青果の夏秋キュウリ No.1 JAうご産ブラック」 (秋田県・JAうご)

日本農業新聞

2012年(平成24年)8月18日(土曜日)

経営特報

(16)

ブラック No.1 高品質で信頼 最高値

秋田・JAうご産 ▶

No.1

東京青果の夏秋キュウリ



箱詰めされた「ブラック」の仕上がりを確認するJAうごきょうり部会員(秋田県羽後町で)



高品質のキュウリ栽培を目指す高橋部長。曲がりが大きい効果は早めに摘み取る(秋田県羽後町で)

農家の手選別徹底

0.9センチ以内
ブラインド構築

秋田県羽後町のJAうごきょうり部会員が黒い出荷箱で出荷するキュウリ(通称「ブラック」)は、大手青果卸の東京青果(東京・大田市場)が扱う夏秋キュウリで最高値が付く。「ブラック」は農家による全手選別で、曲

部会員17人が2・5センチの全国平均価格(2008年)より1・4センチで栽培し、5月に毎年約200トンを出荷する。部長を務める高橋幸基さん(58)は「栽培面積に限りがある分、厳選出荷で勝負する」と言い切る。

「ブラック」を後め、キュウリの出荷先は全て東京青果。出荷の3分の1を占める「ブラック」の2011年産の平均取引価格は、1キロ当たり440円。東京市場の同年産

「ブラック」の誕生は05年。曲がり「ゼロ」のは全手選別に切り替えるとともに、「ブラック」の規格を上げた。曲がりが0・9センチ以内を「A品」、曲がりが0・1センチを超え、3センチ以内のキュウ

「ブラック」に設定。曲がりがほとんどないものがA品、曲がりが0・1センチを超え、3センチ以内のキュウ

「ブラック」に設定。曲がりがほとんどないものがA品、曲がりが0・1センチを超え、3センチ以内のキュウ

毎朝目ぞろえで確認 JA

JAうごきょうり部会は、健全な病気に罹りやすい「根がく」収穫後の棚持ち「フレスコ100」(久)が付きにくく、根が張って強くなる。とみる。生育ステージに合わせた小まめな水やりや追肥を行う。月に1度種

箱詰めも工夫す「ブラック」のB品売り上げ目標は毎年60

部会長の「選別は手間がかかると、部会員が一丸となって良品生産に励む。

経営特報

「売り上げを伸ばす」「手取りを増やす」——経営改善に役立つ情報をお届けします。

情報提供
Eメール: kaidai@agribusiness.co.jp
FAX: 03(6360)7722

りを一盤とした。選別の場合、無作為に詰めな

は各部会員が目視で行い、0・1センチずつに分け

う。関東のあるJA全農で並べたり、0・3センチ

県本部はA品を曲がりがみて大まかに3グループ

1・5センチ以内、B品を3に分けたりするなど、部

会によってさまざま。県平均の指標を2割ほど

だ。共販なので詰め方の

同部会の秀品率(曲がりが)違いによる価格差はな

り1・5センチ以内)は全体的に。JAうご営農販売課

の3分の2に当たり、他の伊藤俊哉課長代理は

産地と同水準。選果の徹「曲がった方向を上に向

底がランド構築の鍵と「ふたを開けた時の見

た目にも気を配っている」と下がった。高橋部

「と、選果の徹底ぶり

を強調する。

部会のキュウリ全体の箱詰めも工夫す

「ブラック」のB品売り上げ目標は毎年60

ると手寄せをつかむ

るので所得は増えてい

らる」と手寄せをつかむ

らる」と手寄せをつかむ

らる」と手寄せをつかむ

労働費を除く生産費と

日、他の生産者が出すキ

ュウリを見て意見を申し

合う。規格に合わせた選

別の感覚を失わないよう

にしている」という。天

候や生育状況、栽培管理

などの情報交換も欠かさ

ず、部会員が一丸となっ

て良品生産に励む。